

QND Ver.9.1→QAW Ver.3.4 SP1 ～乗換手順書～

クオリティ株式会社

<http://www.quality.co.jp/>

最終更新日:2008/08/29

文書番号:QND91→QAW341-N-200808

対象読者:QND管理者

1. はじめに	2
2. 乗換作業の流れ	3
3. 乗換前の準備作業	3
4. マスターサーバの乗換	6
5. コンソールの乗換	12
6. スレーブサーバの乗換	16
7. QNDホストの乗換	18
8. 付録	20

注意事項

- 本手順書は、QND Ver. 9. 1から、QAW Ver. 3. 4 SP1へ移行する際の手順と注意点について説明したものです。QND Ver. 9. 1 SP1、QND Ver. 9. 3、QND Ver. 9. 3 SP1、QND Ver. 9. 4、QND Ver. 9. 4 SP1からQAW Ver. 3. 4 SP1へ移行する場合も、手順は同様です。
本文中の「9. 1」を、ご利用のQNDのバージョンに読み替えてご利用ください。

1. はじめに

本章では、本手順書での基本用語と、QAW Ver. 3.4 SP1へ移行するために必要な動作環境について説明します。

1-1 基本用語

本手順書で使用する用語を次の表に示します。

用語	説明
QNDサーバ	QND/QAW管理下のクライアントPCの情報を収集するサーバプログラム ※QAWの場合も、サーバプログラムはQNDサーバと呼びます。
スレープサーバ	管理するPCが多く、QNDサーバの負荷を軽減する場合や、ネットワークがセグメントで分かれている場合に設置するサーバ ※本手順書内では、QNDサーバのデータをバックアップするために設置するレプリケーションサーバもスレープサーバに含まれるものとします。
QAW	QND PlusのアプリケーションDB機能を強化し、アセット管理とライセンスコントロールができるパッケージ
QAWコンソール	QNDサーバに接続し、クライアントPCの情報収集・管理、収集した情報の管理を行うためのコンソール
QNDホスト	QNDサーバで管理しているPC
QNDエージェント	QAWコンソールで作成したタスクをQNDホスト側で実行するためのプログラム 参照先：『QAW Ver. 3.4 SP1 -運用編-』「I 7-3.タスクを実行する タスクをプル実行する」
クライアント	QND/QAW管理下でないPC
乗換（のりかえ）	QNDからQAWへの移行

1-2 動作環境

乗換を実行するPCは、QAW Ver. 3.4 SP1の動作環境を満たしている必要があります。

QAW Ver. 3.4 SP1の動作環境については、『QAW Ver. 3.4 SP1 -導入・メンテナンス編-』「I 2.動作環境」を参照してください。

1-3 オプション製品について

QAW Ver. 3.4 SP1への乗換後は、QAW Ver. 3.4 SP1に対応しているオプション製品をご利用ください。

QAW Ver. 3.4 SP1に対応しているオプション製品については、弊社Webページ掲載の「QAW Ver. 3.4 SP1 対応オプション製品」をご覧ください。

(http://www.quality.co.jp/products/QAW/QAW_option.html)

2. 乗換作業の流れ

本章では、乗換作業の流れについて説明します。
次の順序で乗換を実行します。

- ▶ 乗換前の準備作業
- ▶ マスターサーバの乗換
- ▶ コンソールの乗換
- ▶ スレーブサーバの乗換
- ▶ QNDホストの乗換

⚠ 注意 乗換の順序

乗換は本手順書で案内している順序で進めてください。

また、必ず各PC（マスターサーバ/コンソール/スレーブサーバ/QNDホスト）すべての乗換を実行してください。順序どおり乗換を実行していない、もしくは一部PCが乗換を実行していない場合、運用上さまざまな問題が発生する恐れがあります。発生する問題については、「[8-1 乗換が適切に実行されていないとき](#)」(P. 20) を参照してください。

3. 乗換前の準備作業

本章では、マスターサーバ、スレーブサーバ、コンソール、QNDホストの乗換を実施する前の準備作業について説明します。

準備作業は次の手順で実施します。

- ▶ スレーブサーバのデータ転送の停止
- ▶ マスターサーバの停止とデータバックアップ
- ▶ スレーブサーバの停止とデータバックアップ
- ▶ コンソールのバックアップ

以下、詳述します。

3-1 スレーブサーバのデータ転送の停止

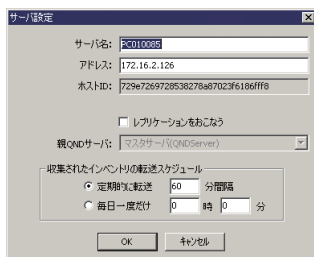
本節では、スレーブサーバからマスターサーバへのデータ転送を停止する手順について説明します。

データ転送を停止していない状態で、QAW Ver. 3.4 SP1への乗換を実施すると、トラブルが発生する可能性があります。スレーブサーバのデータ転送停止は、必ず行ってください。

手順1 QNDコンソールを起動し、グループ/フィルター一覧からスレーブサーバを右クリックして、表示されるコンテキストメニューから「プロパティ」をクリックします。

「サーバ設定」ダイアログが表示されます。

手順2 「収集されたインベントリの転送スケジュール」 - 「定期的に転送」を選択し、間隔を「0」分に設定します。



- 手順3 [OK] をクリックします。
「サーバ設定」ダイアログが閉じます。
以上で、スレーブサーバからマスターサーバへのデータ転送の停止は終了です。

3-2 マスターサーバの停止とデータバックアップ

本節では、マスターサーバのサービスを停止しデータのバックアップを行う手順について説明します。マスターサーバの乗換を実施する前に必ず実行してください。




マスターサーバの停止手順

マスターサーバのサービスを停止します。
マスターサーバのサービスが稼動している状態で、QAW Ver. 3.4 SP1への乗換やデータのバックアップを実施すると、トラブルが発生する可能性があります。マスターサーバのサービス停止は、必ず行ってください。
以下の手順にしたがって、マスターサーバを停止します。

- 手順1 マスターサーバPCに、管理者アカウントでログオンします。
- 手順2 [スタート] - [プログラム] - [管理ツール] - [サービス] をクリックします。
「サービス」ウィンドウが表示されます。
- 手順3 「Application Integrate Server」を右クリックして、表示されるコンテキストメニューから[停止] をクリックします。
- 手順4 「サービス」ウィンドウを閉じます。
以上で、マスターサーバのサービス停止は終了です。

データのバックアップ

次の表にしたがってマスターサーバの各ディレクトリのバックアップを実行します。

バックアップ対象	バックアップするディレクトリ
[QNDPlus] ディレクトリ	<p>C:\Program Files\QNDPlus\のバックアップを実行</p> <p> 注意 インストール先を変更している場合 インストール先を変更している場合は、変更先のディレクトリをバックアップしてください。</p> <p> ヒント 元の場所に戻すファイル 乗換実行後、次の2ファイルを元の場所に戻す必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • \QNDPlus\bin\Rulea7.csv • \QNDPlus\etc\multicast.ini
[ApInServ] ディレクトリ	<p>%Windir%\ApInServ\のバックアップを実行</p> <p> 注意 ディレクトリサーバのインストール先を変更している場合 ディレクトリサーバのインストール先を変更した場合、ディレクトリサーバ本体は %Windir%\ApInServ\ にインストールされます。ただし、運用時に収集したデータ（変更しなかった場合は %Windir%\ApInServ\dirsrv\ddb\ に保存されています）は、変更先のディレクトリに保存されます。 ディレクトリサーバのインストール先を変更している場合は、データ保存先のディレクトリもあわせてバックアップしてください。</p>

⚠ 注意 設定パスがデフォルトでない場合

QNDコンソールで [ツール] - [サーバ固有の設定] をクリックすると表示される「サーバ固有の設定」ダイアログの各タブで、ファイルの保存先パスを変更している場合は、それらのディレクトリを別途バックアップする必要があります。

設定変更を行っている場合は、次の表を参考にバックアップを行ってください。

タブ名	設定項目
エージェント	「QNDエージェントを共有するディレクトリ」
インベントリ	「保存用QNDインベントリディレクトリ」
サーバログ	「ディレクトリ名」
タスクログ	「タスクログ移動先ディレクトリ」
CSV設定	「CSVファイル保存用ディレクトリ名」
外部DB設定	「CSVファイル保存用ディレクトリ名」

3-3 スレーブサーバの停止とデータバックアップ

本節では、スレーブサーバのサービスを停止し、データのバックアップを行う手順について説明します。スレーブサーバの乗換を実施する前に必ず実行してください。

スレーブサーバの停止手順

スレーブサーバのサービスを停止します。

スレーブサーバのサービスが稼動している状態で、QAW Ver. 3.4 SP1への乗換やデータのバックアップを実施すると、トラブルが発生する可能性があります。スレーブサーバのサービス停止は、必ず行ってください。

以下の手順にしたがって、スレーブサーバを停止します。

- 手順1 スレーブサーバPCに、管理者アカウントにてログオンします。
- 手順2 [スタート] - [プログラム] - [管理ツール] - [サービス] をクリックします。
「サービス」ウィンドウが表示されます。
- 手順3 [Application Integrate Server] を右クリックして表示されるコンテキストメニューから [停止] をクリックします。
- 手順4 「サービス」ウィンドウを閉じます。
以上で、スレーブサーバのサービス停止は終了です。

データのバックアップ


次の表にしたがってスレーブサーバの各ファイルのバックアップを実行します。

バックアップ対象	バックアップするディレクトリ
スレーブサーバのインストールディレクトリ	QND Ver. 9.1のスレーブサーバのインストール先に指定したディレクトリのバックアップを実行
[ApInServ] ディレクトリ	%Windir%\ApInServ¥のバックアップを実行 ※スレーブサーバではディレクトリサーバのインストール先は変更できません。

3-4 コンソールのバックアップ

本節では、コンソールプログラムのバックアップについて説明します。

QNDコンソール、QIVコンソール、RCコンソールをマスターサーバと別PCで運用している場合、次の表を参考に、該当コンソールのディレクトリをバックアップします。

バックアップ対象	バックアップするディレクトリ
[QNDPlus] ディレクトリ	C:\Program Files\QNDPlusのバックアップを実行  注意 インストール先を変更している場合 インストール先を変更している場合は、変更先のディレクトリをバックアップしてください。

4. マスターサーバの乗換

本章では、マスターサーバの乗換方法について説明します。
マスターサーバの乗換作業は、次の順序で実行します。

- ▶ マスターサーバの乗換
- ▶ 乗換後の確認
- ▶ QAWライセンスの登録

以下、詳述します。

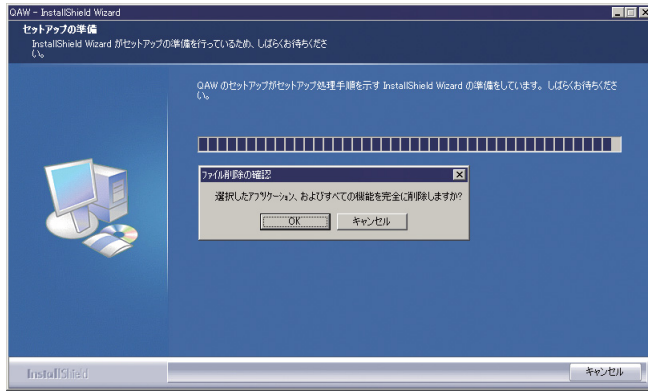
4-1 マスターサーバの乗換

本節では、マスターサーバをQND Ver. 9.1からQAW Ver. 3.4 SP1へ乗換する手順を説明します。
以下の手順を実行することで、タスクやインベントリデータ、アプリケーションDBの設定が、QAW用に自動的に更新されます。

- 手順1 マスターサーバをインストールしているPCに、管理者アカウントでログオンします。
- 手順2 QAW Ver. 3.4 SP1の製品CD（以下製品CD）をセットします。
Quality Product Menuが起動します。
起動しない場合は、製品CD内のautorun.exeをダブルクリックして起動させます。
- 手順3 左のリストで [Quality Asset Watcher] が選択されていることを確認し、[QAW Server Setup] をクリックします。



インストーラが起動し、「ファイル削除の確認」ダイアログが表示されます。



注意 QND Ver. 9.1で管理していたデータ

乗換時には、QND Ver. 9.1のアンインストールを実行しますが、QNDホストやタスクなどの情報は削除されません。手順にしたがって乗換を完了すると、QND Ver. 9.1で運用していた情報を、引き続き利用できます。

手順4 [OK] をクリックします。

QND Ver. 9.1がアンインストールされます。

「メンテナンスの完了」ダイアログが表示されます。



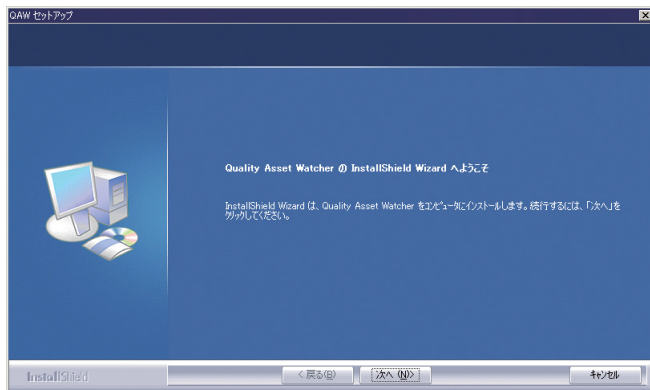
手順5 [完了] をクリックします。

Quality Product Menuに戻ります。

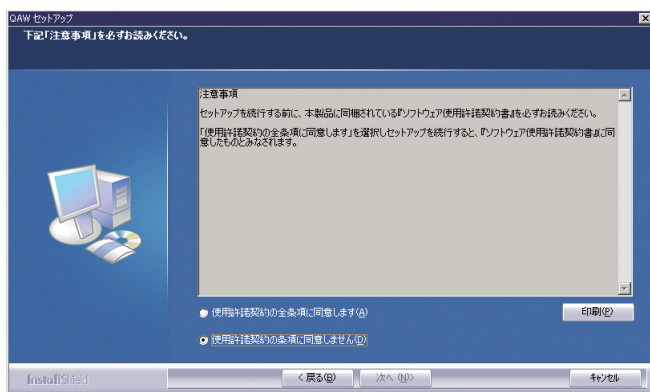
表示されない場合は、製品CD内のautorun.exeをダブルクリックして起動させます。

手順6 左のリストで [Quality Asset Watcher] が選択されていることを確認し、[QAW Server Setup] をクリックします。

「Quality Asset WatcherのInstallShield Wizard へようこそ」ダイアログが表示されます。



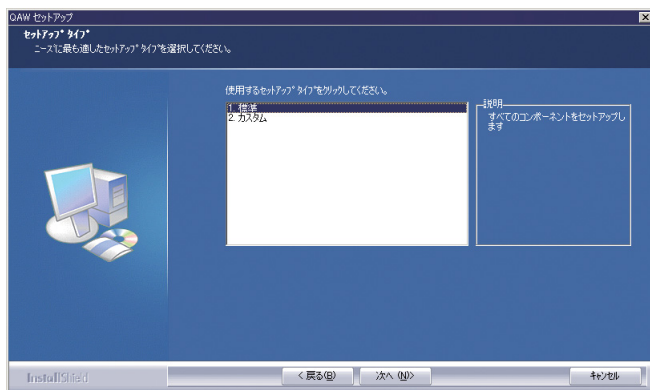
- 手順7 [次へ] をクリックします。
「注意事項」ダイアログが表示されます。



注意 使用許諾契約

「使用許諾契約」は必ずお読みください。

- 手順8 使用許諾の内容に同意する場合は、[使用許諾契約の全条項に同意します] をオンにし、[次へ] をクリックします。
「セットアップタイプ」ダイアログが表示されます。



- 手順9 [1. 標準] を選択し、[次へ] をクリックします。

「インストール先の選択」ダイアログが表示されます。

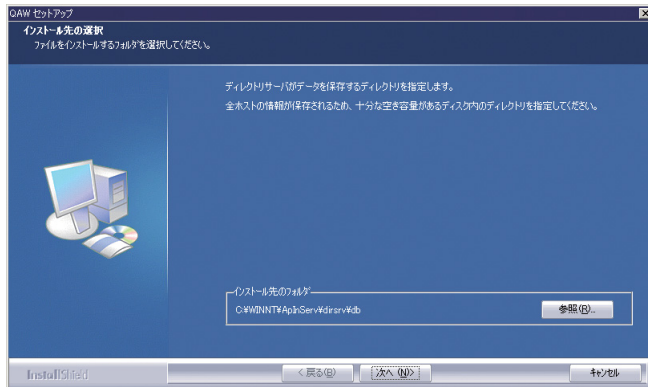


注意 QND Ver. 9.1と同じインストール先を選択

「インストール先の選択」では、必ずQND Ver. 9.1と同じインストール先を選択してください。異なるインストール先を指定すると、正しく乗換を行うことができません。

手順10 インストール先のディレクトリを確認して、[次へ] をクリックします。

[Application Integrate Server] ディレクトリの「インストール先の選択」ダイアログが表示されます。

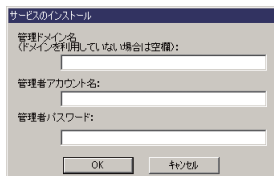


注意 QND Ver. 9.1と同じインストール先を選択

「インストール先の選択」では、必ずQND Ver. 9.1と同じインストール先を選択してください。異なるインストール先を指定すると、正しく乗換を行うことができません。

手順11 [Application Integrate Server] ディレクトリのインストール先を確認して、[次へ] をクリックします。

「サービスのインストール」ダイアログが表示されます。



手順12 次の表を参考に内容を入力します。

項目	説明
管理ドメイン名	ドメイン管理されている場合はドメイン名を入力 (ワークグループの場合は空欄)
管理者アカウント名	マスターサーバPCが所属するドメインの管理者権限を有するアカウント名、 ドメイン管理されていない場合はPCの管理者アカウント名を入力
管理者パスワード	上で入力した管理者アカウントのパスワードを入力

手順13 [OK] をクリックします。
メッセージダイアログが表示されます。



手順14 [OK] をクリックします。
「InstallShield Wizardの完了」ダイアログが表示されます。



手順15 [OK] をクリックします。
「InstallShield Wizardの完了」ダイアログが閉じます。

手順16 「データのバックアップ」(P.4) でバックアップしておいたファイルのうち、次の2つを元の場所にコピーします。

- %QNDPlus%\bin\Rulea7.csv
- %QNDPlus%\etc\multicast.ini

手順17 乗換を行うと、QIVの一部の設定がデフォルト設定に戻ります。QIVコンソールを起動して、「CSV読み込み設定/集計ディレクトリ設定」の設定を元の設定に戻します。
詳細な手順については、『QAW Ver. 3.4 SP1 リファレンス』『VI QIV Ver. 5.4 SP1』を参照してください。

以上で、マスターサーバのQND Ver. 9.1からQAW Ver. 3.4 SP1への乗換は終了です。

4-2 乗換後の確認

本節では、乗換作業の確認について説明します。
インストール完了後、次の点を確認してください。

▶ QAWへの乗換完了を確認

乗換完了は、次の手順で確認します。

手順1 C:\¥Program Files¥QNDPlus¥bin¥UNICODE¥jaを開きます。

手順2 [QAWOption.ex_] ファイルが存在することを確認します。

[QAWOption.ex_] ファイルが存在すれば、QAW Ver. 3.4 SP1への乗換に成功しています。

▶ Application Integrate Serverの起動を確認

Application Integrate Serverの起動の有無は、次の手順で確認します。

手順1 [スタート] - [プログラム] - [管理ツール] - [サービス] をクリックします。

「サービス」ウィンドウが表示されます。

手順2 [Application Integrate Server] の状態が [開始] になっているか確認します。

▶ QAW関連のプロセス稼働の有無を確認

「Windowsタスクマネージャ」を表示させ、[プロセス] タブをクリックします。
次のプロセスが動作中であることを確認してください。

- acpsrv
- AppServ.exe
- FileServer.exe
- QIVServer
- QNDSVR
- SkipServ

4-3 QAWライセンスの登録

本節では、乗換後のQAWライセンスの登録方法について説明します。
インストール後、QAWのライセンスを登録してください。

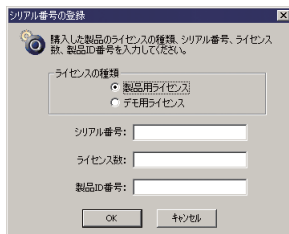
⚠ 注意 QAWコンソールの乗換

コンソールをマスターサーバとは別のPCにインストールしている場合は、先に「[5-1 コンソールの乗換](#)」(P. 12)を参照し、コンソールの乗換を実施してください。

手順1 QAWコンソールを起動します。

手順2 [ファイル] - [ライセンスの変更] をクリックします。

「シリアル番号の登録」ダイアログが表示されます。



手順3 QAW Ver. 3.4 SP1のシリアル番号、ライセンス数、製品ID番号を入力し、[OK] をクリックします。
以上で、QAWライセンスの登録は終了です。

5. コンソールの乗換

本章ではコンソールの乗換手順について説明します。
コンソールをQNDサーバPCと別PCで運用している場合は、本章を参照してください。
コンソールをQNDサーバPCと同じPCで運用している場合は、マスターサーバの乗換によって、コンソールの乗換も完了しています。本章をスキップしてください。

⚠ 注意 コンソール設定

乗換を実施すると、QAW、QIV、RCの各コンソールの設定がデフォルト値にクリアされる場合があります。

コンソールの乗換作業は、次の順序で実行します。

- ▶ [コンソールの乗換](#)
- ▶ [乗換後の確認](#)

以下、詳述します。

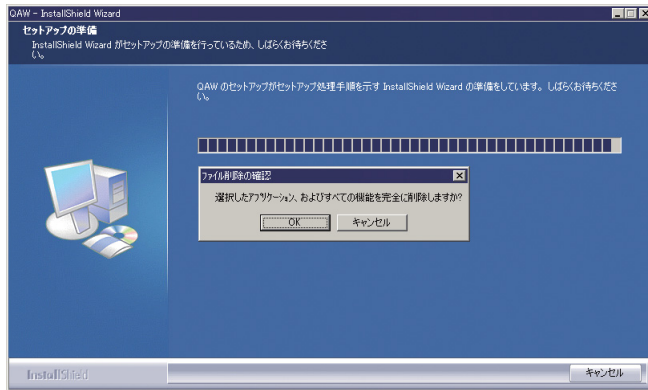
5-1 コンソールの乗換

本節では、コンソールプログラムの乗換手順について説明します。
次の手順にしたがって乗換を実行してください。

- 手順1 コンソールをインストールしているPCに管理者アカウントでログオンします。
- 手順2 製品CDをセットします。
Quality Product Menuが起動します。
起動しない場合は、製品CD内のautorun.exeをダブルクリックして起動させます。
- 手順3 左のリストで [Quality Asset Watcher] が選択されていることを確認し、[QAW Server Setup] をクリックします。



インストーラが起動し、「ファイル削除の確認」ダイアログが表示されます。



- 手順4 [OK] をクリックします。
QND Ver. 9.1のコンソールがアンインストールされます。
「メンテナンスの完了」ダイアログが表示されます。

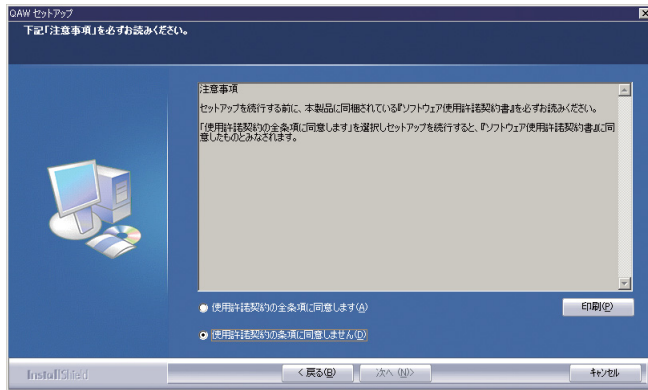


- 手順5 [完了] をクリックします。
Quality Product Menuに戻ります。
表示されない場合は、製品CD内のautorun.exeをダブルクリックして起動させます。

- 手順6 左のリストで [Quality Asset Watcher] が選択されていることを確認し、[QAW Server Setup] をクリックします。
「Quality Asset WatcherのInstallShield Wizard へようこそ」ダイアログが表示されます。



- 手順7 [次へ] をクリックします。
「注意事項」ダイアログが表示されます。

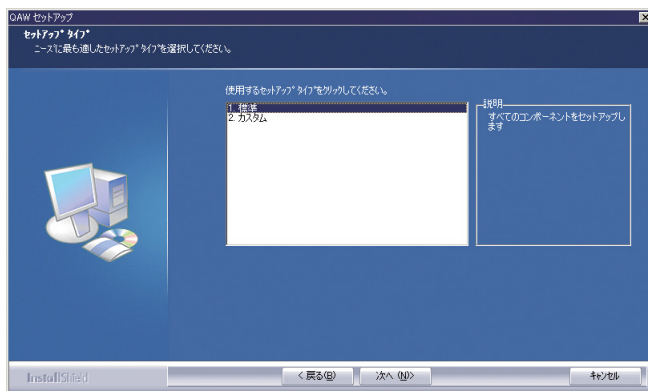


注意 使用許諾契約

「使用許諾契約」は必ずお読みください。

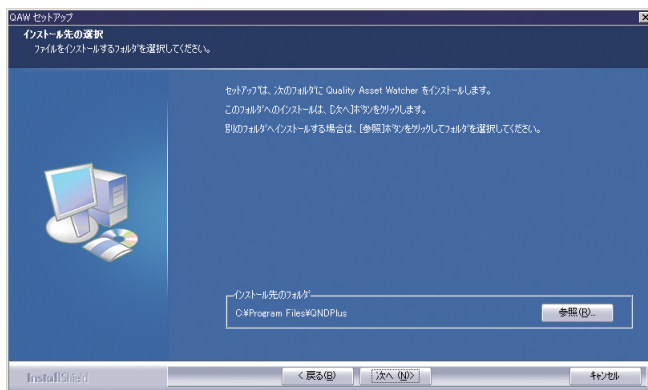
手順8 使用許諾の内容に同意する場合は、[使用許諾契約の全条項に同意します] をオンにし、[次へ] をクリックします。

「セットアップタイプ」ダイアログが表示されます。



手順9 [カスタム] を選択して [次へ] をクリックします。

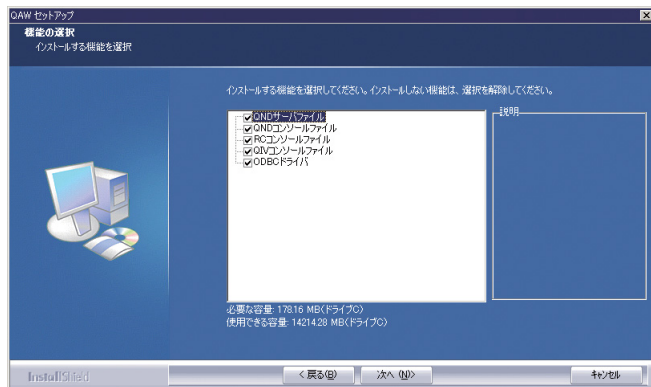
「インストール先の選択」ダイアログが表示されます。



注意 QND Ver. 9.1と同じインストール先を選択

「インストール先の選択」では、必ずQND Ver. 9.1と同じインストール先を選択してください。異なるインストール先を指定すると、正しく乗換を行うことができません。

- 手順10 インストール先のディレクトリを確認して、[次へ] をクリックします。
「機能の選択」ダイアログが表示されます。



- 手順11 [QNDサーバファイル] のチェックを外します。

- 手順12 次の表を参考にインストールする項目にチェックを入れ、[次へ] をクリックします。

項目	説明
QNDコンソールファイル	QAWコンソールをインストール
RCコンソールファイル	RCコンソールをインストール
QIVコンソールファイル	QIVコンソールをインストール
ODBCドライバ	ODBCドライバをインストール

インストールが開始されます。

「InstallShield Wizardの完了」ダイアログが表示されます。



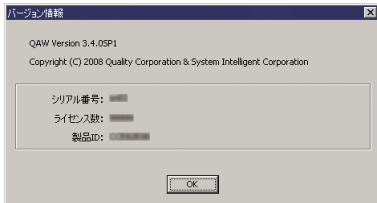
- 手順13 [完了] をクリックします。

「InstallShield Wizardの完了」ダイアログが閉じます。

以上で、コンソールのQND Ver. 9.1からQAW Ver. 3.4 SP1への乗換は終了です。

5-2 乗換後の確認

本節では、コンソールプログラム乗換後の確認方法について説明します。
QAWコンソールを起動し、メニューより [ヘルプ] - [バージョン情報] を確認してください。



[QAW Version] が [3.4.0SP1] であることを確認してください。

以上で、乗換後の確認は終了です。

6. スレーブサーバの乗換

ここでは、スレーブサーバの乗換手順について説明します。
スレーブサーバの乗換は、スレーブサーバプログラムの上書きインストールによって実行します。

❗ 注意 マスターサーバとスレーブサーバの乗換

マスターサーバの乗換後、直ちにスレーブサーバの乗換を実行してください。
QNDのスレーブサーバでは、QAWのスレーブサーバの一部の機能が利用できません。

スレーブサーバの乗換作業は、次の順序で実行します。

- ▶ スレーブサーバの上書きインストール
- ▶ インストール後の確認

以下、詳述します。

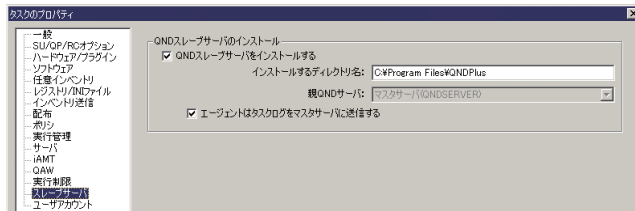
6-1 スレーブサーバの上書きインストール

本節では、スレーブサーバの上書きインストール手順について説明します。
次の手順にしたがって、上書きインストールを実行してください。

- 手順1 QAWコンソールメニューから [タスク] - [タスク作成:名前のみ] をクリックします。
「タスクの作成」ダイアログが表示されます。
- 手順2 [全機能タスク] を選択して、タスク名を入力します。
- 手順3 [OK] をクリックします。
タスク一覧に作成したタスク名が追加されます。
- 手順4 作成したタスクをダブルクリックします。
「タスクのプロパティ」ダイアログが表示されます。
- 手順5 [スレーブサーバ] タブをクリックし、[QNDスレーブサーバをインストールする] にチェックを入れます。
- 手順6 [インストールするディレクトリ名] へ現在のスレーブサーバがインストールされているディレクトリ名を指定します。

⚠ 注意 QND Ver. 9.1と同じインストール先を選択

「インストール先の選択」では、必ずQND Ver. 9.1と同じインストール先を指定してください。異なるインストール先を指定すると、正しく乗換を行うことができません。



手順7 QNDエージェントを作成します。

手順8 作成したQNDエージェントをスレーブサーバPCでプル実行します。

⚠ 注意 プッシュ実行で実行する場合

QND Ver. 9.1のQPオプションの接続先が、マスターサーバではない可能性があります。プッシュ実行でスレーブサーバの乗換を実行する場合は、スケジュールの追加時に、[エージェントが接続するサーバ名] でQAW Ver. 3.4 SP1への乗換を実施したサーバを指定し、[このサーバをデフォルトサーバにする] にチェックを入れてください。接続先が正しくないままタスクをプッシュ実行した場合、スレーブサーバの乗換が正しく完了できない場合があります。

以上で、スレーブサーバの上書きインストールは終了です。

6-2 インストール後の確認

本節では、インストール後の確認手順について説明します。スレーブサーバインストール後、次の点を確認してください。

※インストール完了後、QAWコンソールの表示を更新してください。

QAWへの乗換が完了していることの確認

スレーブサーバの運用を開始する前に、正しく乗換が完了していることを確認します。スレーブサーバ乗換の確認は、次の手順で行います。

手順1 C:\Program Files\QNDPlus\bin\UNICODE\jaを開きます。

手順2 [QAWoption.ex_] ファイルが存在することを確認します。

QAWコンソールからスレーブサーバとマスターサーバの通信状態の確認

QAWコンソールから、スレーブサーバとの通信状態を確認することが可能です。[グループ/フィルタ] 一覧上のスレーブサーバPCが水色で表示されていればQNDサーバと通信可能となっています。

※水色で表示されない場合は、スレーブサーバのサービスが稼動しているか確認してください。

スレーブサーバに接続可能か否かを確認

乗換後、スレーブサーバに実際に接続して、サービスが起動していることを確認します。

QAWコンソールでスレーブサーバを右クリックし、[コンソールで接続] を選択します。QAWコンソールがスレーブサーバに接続され、起動することを確認してください。

※接続できない場合は、スレーブサーバのサービスが稼動しているか確認してください。

スレーブサーバのデータ転送の確認と再開

「3. 乗換前の準備作業」(P. 3) で、停止していたスレーブサーバのデータ転送を再開します。スレーブサーバのデータ転送の確認と再開は次の手順で行います。

- 手順1 QAWコンソールでスレーブサーバを右クリックし、表示されるコンテキストメニューより「プロパティ」を選択します。
- 手順2 「定期的に転送」を確認し、「[0] 分から設定していた時間に戻します。(推奨値は60分以上) 以上で、インストール後の確認は終了です。

7. QNDホストの乗換

本章ではQNDホストの乗換手順について説明します。QNDホストの乗換は、クライアントプログラムの強制インストールによって実行します。

QNDホストの乗換作業は、次の順序で実行します。

- ▶ [クライアントプログラムのインストール](#)
- ▶ [インストール後の確認](#)

以下、詳述します。

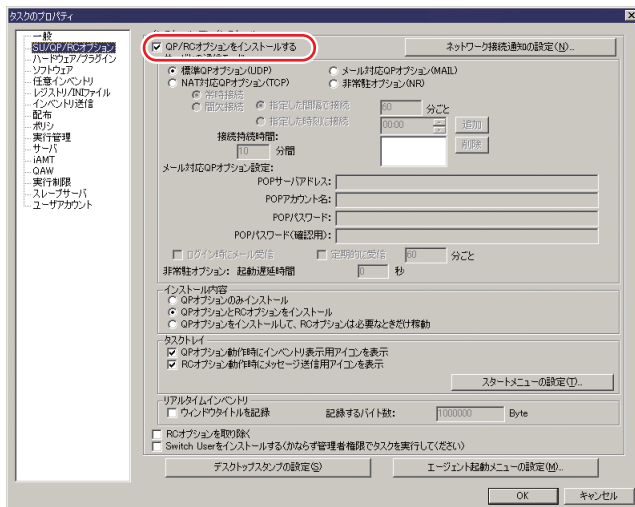
7-1 クライアントプログラムのインストール

QAW Ver. 3.4 SP1のQNDサーバから、クライアントに任意のタスクを実行することで、強制バージョンアップ機能が働き、QNDホストに自動的にQAW Ver. 3.4 SP1のクライアントプログラムがインストールされます。

「7-2インストール後の確認」(P. 19) を参照し、QAW Ver. 3.4 SP1への乗換確認を行います。乗換が成功していない場合は、次の手順にしたがってクライアントプログラムの上書きインストールを実行してください。

- 手順1 QAWコンソールメニューから「[タスク] - [タスク作成:名前のみ]」をクリックします。「タスクの作成」ダイアログが表示されます。
- 手順2 「全機能タスク」を選択して、タスク名を入力します。
- 手順3 「OK」をクリックします。タスク一覧に作成したタスク名が追加されます。
- 手順4 作成したタスクをダブルクリックします。「タスクのプロパティ」ダイアログが表示されます。
- 手順5 「[SU/QP/RCオプション] タブ」をクリックします。

手順6 [QP/RCオプションをインストールする] にチェックを入れます。



手順7 [OK] をクリックします。

「タスクのプロパティ」ダイアログが閉じます。

手順8 QNDホストに対し、タスクをプル実行またはプッシュ実行します。

以上で、QNDホストの乗換は終了です。

7-2 インストール後の確認

本節では、インストール後の確認方法について説明します。

QAWOption.exeが存在することを確認することで、クライアントプログラムの上書きインストールが完了していることを確認できます。

次の手順にしたがって、確認を実行してください。

手順1 新規タスクを作成します。

手順2 作成したタスクをダブルクリックします。

「タスクのプロパティ」ダイアログが表示されます。

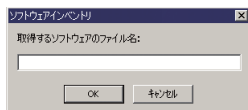
手順3 [ソフトウェア] タブをクリックします。

手順4 [ソフトウェアインベントリを収集] にチェックを入れます。

[独自に収集するファイル一覧] の [追加] がアクティブになります。

手順5 [追加] をクリックします。

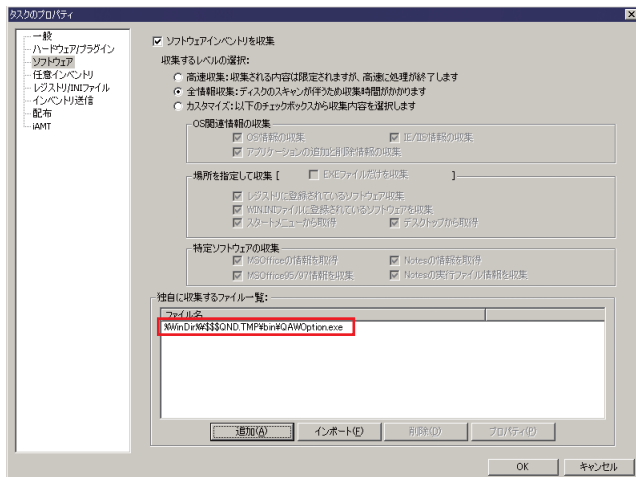
「ソフトウェアインベントリ」ダイアログが表示されます。



手順6 [%WinDir%\¥¥¥¥QND.TMP¥bin¥QAWOption.exe] を入力します。

手順7 [OK] をクリックします。

「独自に収集するファイル一覧」に「%WinDir%\¥¥¥¥QND.TMP¥bin¥QAWOption.exe」が追加されます。



手順8 作成したタスクを乗換を実行済みのQNDホストに対して、プル実行またはプッシュ実行します。

手順9 QAWコンソールで、収集したソフトウェアインベントリを確認します。
ソフトウェアインベントリにQAWOption.exeが存在することを確認してください。
以上で、インストール後の確認は終了です。

8. 付録

8-1 乗換が適切に実行されていないとき

乗換が適切に実行されていないとき、以下のような問題が発生します。
次の表にある問題が発生した場合は、表に記載されている原因を参考に、対策を講じてください。

発生した問題	原因
QAWコンソールをスレーブサーバに接続した際に、コンソールのユーザインターフェースが、QNDのユーザインターフェースになっている	<p>マスターサーバをQND Ver. 9.1からQAW Ver. 3.4 SP1に乗り換えた際、マスターサーバとスレーブサーバが通信できる状態であれば、スレーブサーバのライセンスもQAWに変更される</p> <p>スレーブサーバがマスターサーバと通信できない状態では、スレーブサーバのライセンスは変更されず、QNDのライセンスが使用される</p> <p>この状態でコンソールからサーバ接続した場合に、マスターサーバはQAWのユーザインターフェース表示でも、スレーブサーバは使用されているライセンス（QND or QAW）のUI表示となる</p>
QNDホストPCで、QAW固有の機能（リアルタイムインベントリやアプリケーションDBを利用したソフトウェアの起動制限など）が動作しない。正常動作しないにも関わらず、ログにエラー等が出力されない	マスターサーバ、スレーブサーバ、コンソールの乗換が完了しているが、QNDホストの乗換は未実行
QND Ver. 9.1のスレーブ配下のQNDホストをQAW Ver. 3.4 SP1に乗換できない ※QNDログに「QHostID.dll」「QAWHooks.dll」「QAWOption.exe」の転送エラーのログが出力される	<p>スレーブサーバの乗換が完了していない</p> <p>スレーブサーバPCが乗換前の場合は、スレーブサーバ配下のQNDホストは、QAW Ver. 3.4 SP1への乗換を実行できない。スレーブサーバにクライアントの乗換を実行するために必要なQAW特有のファイルが存在しないため</p>

発生した問題	原因
<p>スレーブサーバPCに「同期：ファイル等」を実行した場合に、スレーブサーバプログラムをインストールするタスクを実行していないにも関わらず、マスターサーバPCからスレーブサーバPCへQAW関連のファイルが自動的にコピーされる</p>	<p>マスターサーバ、コンソールの乗換が完了しているが、スレーブサーバの乗換が完了していない</p>
<p>RCオプションのサービスが停止している</p>	<p>QND Ver. 9.1で、RCオプションがインストールされていたQNDホストに対して、QAW Ver. 3.4 SP1への乗換実行後にRCオプションのインストールを実行すると、RCオプションのサービスが停止する場合があります</p> <p>このような場合でも、サービスを手動で起動するか、QNDホストの再起動を行うことで復帰可能</p>